第18回 縄文楽検定 中級 解答集

令和8年4月2日作成

テキストから70%の出題でした。テキストの略称は以下のとおりです。

テキストⅠ:縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焔土器』(信濃川火焔街道連携協議会、平成21年3月刊行)
テキストⅡ:縄文楽検定テキストⅡ『信濃川火焔街道 縄文の旅』(信濃川火焔街道連携協議会、平成23年12月刊行)
『あ、コレ知ってる!』:新潟県立歴史博物館編『あ、これ知ってる!はにわ どぐう かえんどきの昭和平成』(新潟日報事業社、令和元年8月刊行)。
日本遺産ガイドブック:『日本遺産「なんだ、コレは!」信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化』ガイドブック
(信濃川火焔街道連携協議会、令和3年度改訂版 ※平成28年度版とは頁数が異なるので注意)
『信濃川火焔街道連携協議会ガイドブック Vol.6』

問	解	問題の出典と解説
1	a	テキスト外 趣意書「火焔型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に」2p 縄文土器が現在の日本列島の範囲そのものから出土しておりこの地域の地域性が縄文時代にはすでにあったことがわかります。
2	d	日本遺産ガイドブックp1 火焔土器の国p4
3	c	日本遺産ガイドブックp13 テキストⅡp13 aは津南町堂平遺跡出土の火焔型土器、bは三条市長野遺跡出土の火焔型土器、dは長岡市岩野原遺跡出土の火焔型土器です。
4	a	テキストⅠp6
5	突起	日本遺産ガイドブックp2
6	小林達雄 氏	テキスト外
7	a	テキスト外 朝日選書『縄文人の世界』p4など
8	d	テキストⅡp12 昭和30年(1955)栃倉遺跡の発掘調査で、日本海側諸県で初めて、竪穴住居跡の全体が発掘されました。竪穴住居跡の形状や、炉跡、柱穴の配置などを確認し、貴重な発見例となりました。
9	c	日本遺産ガイドブックp10・14・21・25
10	d	テキストⅠp9
11	d	火焔土器の国新潟p28-32 ※テキスト外
12	d	火焔土器の国新潟p144 テキストⅠp11-14
13	a	テキストⅡp27『にいがたの土偶』(新潟県立歴史博物館)p11-12
14	b	『あ、コレ知ってる!』p28-29 「世界最古」級の土器は日本国内では16,500年前の大平山元遺跡ですが、国外では、現在、最古の土器とされるものは、中国湖南省の玉蟾岩洞穴から出土した土器で約18,000年前といわれています。
15	c	日本遺産ガイドブックp2
16	b	日本遺産ガイドブックp3
17	縄文海進	テキストⅠp1
18	a	日本遺産ガイドブックp26 田代の七ツ釜
19	放射(ほうしゃ)	テキストⅠp.19ほか
20	b	テキストⅠp19－20
21	c	テキスト外 火焔土器の国p42
22	d	『あ、コレ知ってる!』p.17、44 dの亀ヶ岡遺跡出土の左足の欠けた「遮光器土偶」は国の重要文化財に指定されています。
23	b	日本遺産ガイドブックP30
24	a	日本遺産ガイドブックP30
25	c	テキスト外 『にいがたの土偶』(新潟県立歴史博物館)p15など

26	a	テキスト外 「京都大学総合博物館　平成29年度 特別展　火焔型土器と西の縄文」p50・51ほか 土偶と人面装飾付き土器を写真で区別するのは、なかなか難しいので、じっくり観察してみましょう。aに孔があること、bが香炉形土器であること、dには土器の文様があることも見分けるポイントになります。
27	c	テキスト外 沖縄県立博物館・美術館の平成30年度特別展図録『縄文と沖縄－火焔型土器のシンボリズムとヒスイの道－』によれば、縄文時代のヒスイ製品は北海道から沖縄諸島まで出土しています。ヒスイの流通圏は土器や石器とは比較にならないほど広大であったことが分かります。
28	c	テキストⅠp4
29	a	テキストⅠp11 王冠型土器の短冊状突起には、左側に抉り(えぐり)が入るという共通した特徴があります。まれに左右両側に抉りが入るものもありますが、右側にだけ抉りが入るものは、野中遺跡(阿賀野市)に1例あるのみです。このことから、aを見ると写真の左右が反転していることがわかります。
30	c	『あ、コレ知ってる！』p49ほか
31	c	『あ、コレ知ってる！』p27
32	a	テキスト外 『珠玉の国 新潟 ヒスイ, 青玉, 赤玉, 』p13、43、84
33	c	テキストⅠp10
34	c	テキストⅠp9
35	c	テキストⅠp16-17
36	a	「京都大学総合博物館　平成29年度 特別展　火焔型土器と西の縄文」p68
37	b	テキストⅠp17-18
38	モノ送り	テキストⅡp9
39	b	テキストⅠp21－22 消去法の問題です。b)石釧(いしくしろ)は古墳時代に使われた貝製腕輪をモデルとした儀器です。多くは古墳の副葬品として用いられました。
40	c	テキストⅠp21 c魚沼市正安寺遺跡出土の石棒は、中ごろに黒い帯あり、その上(先端方向)は赤く変色しています。これは被熱を受けた痕跡です。黒色帯の下は変色等がなく、その差が明瞭なため、ここが土に埋められていた部分だと考えられています。a十日町市芋川原遺跡出土の石棒は、渦巻き模様が陽刻されるもので、数ある石棒の中でも優品の一つです。b長岡市馬高遺跡出土の石棒は、側面が砥石のようにくぼんでいます。a～cのように、破損していない石棒は実は少数で、多くはd長岡市中道遺跡出土の石棒のように、折れた状態で出土します。
41	b	テキスト外 縄文時代前期(約6,000年前)の鳥浜貝塚(福井県)など、全国の遺跡から出土した土器に編布(アンギン)の痕跡が残っており、古くから使われていたことが分かっています。
42	鈴木牧之 (すずき　ぼくし)	日本遺産ガイドブックP4
43	c	ストーリー　日本遺産ガイドブックp4
44	佐潟(さかた)	日本遺産ガイドブックP6
45	a	テキスト外
46	c	テキスト外
47	c	火炎土器の国新潟p68
48	c	テキストⅡp7
49	カッパ	テキストⅡp7
50	日本文化	テキスト外　趣意書「火焔型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に」p2